

きはだ学級国語科學習指導案

令和5年9月25日（月）5時間目

世田谷区立松沢小学校

第1学年

1 単元名 おはなしをたのしもう

教材名 「やくそく」（光村図書 1年上）

2 単元目標

◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、役になりきってペーパーサークル劇をする。

- ・語のつまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能（1）ク〕
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等 読むこと エ〕

- ・物語を読んで、すすんで内容の大体を捉えたり、感じたことや考えたことを伝えたりしようとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・語の意味やつまり、言葉の響きなどに気を付けて読んでいる。	・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	・物語を読んで、すすんで内容の大体を捉えたり、感じたことや考えたことを伝えたりしようとしている。

4 単元について

（1）これまでの学習経験

きはだ学級の1年生は、これまでの物語文で、「内容の大体を捉える」ことを重点化して学習してきた。「はなのみち」では、くまさんが何をしたかについて、叙述と挿絵を結び付けながら読み取った。「おおきなかぶ」では、増えていく登場人物の順序を確かめながら、それぞれの人物がしたことを行くるくる絵本にまとめた。どちらの学習も、初めに読み取りが不十分であったが、動作化で確かめることにより、内容の大体を捉えることができた。

（2）本教材について

本教材では、地の文や会話文、挿絵を手掛かりに、それぞれのあおむしがしたことや言ったことを読み取り、気持ちを考える学習をしていく。本教材は、読み取りの手掛かりとなる登場人物の「行動」や「会話」を見付けやすいため、叙述を基にあおむしの気持ちを想像しやすい。また、他者と喧嘩をしたり、分かり合えたりすることは、児童にとっても身近で、実体験がある。そのため、登場人物になりきって、劇化を楽しむことができるだろうと考えた。あおむしが徐々に増えていく展

開は「おおきなかぶ」にも似た繰り返しの展開である。大喧嘩をした3匹が、大きな木の言葉をきっかけに世界の広さを知り、未来の約束をするという物語を、想像を広げながら楽しんでほしい。そのための手立てとして、ペーパーサートを用いる。ペーパーサートで会話や地の文から想像できることを演じることで、あおむしの気持ちをより深く理解できるのではないかと考えた。本単元でも、動きを伴った学習を通して、内容への理解を深めていく。

5 児童の実態

本学級の児童は、これまでの物語教材「はなのみち」「おおきなかぶ」では、叙述と挿絵を手掛けたりに、内容理解や、登場人物の気持ちを読み取ってきた。読みの手掛けりが叙述と挿絵のみの時は、読み取りが不十分な児童が多く、学級の中で意見が食い違うことがあった。そこで、動作化を取り入れたところ、理解が深まり、内容の大体を捉えることができた。また、役を演じることで、登場人物の気持ちをいきいきと想像することができた。

肢体不自由の児童は、実体験を伴った経験が少ない。そのため、登場人物の様子や気持ちを読み取る際、「長い長い一本道の長さ」、「力いっぱいかぶをひっぱる感覚」など、叙述を実際に体全体を使って体験することで、理解を深めたり、想像を膨らませたりする学習を積み重ねている。

本単元では、初めてペーパーサート劇に挑戦する。役になりきって演じることで、叙述を基に考えた内容を振り返り、あおむしの気持ちをより深く理解できるようにしたい。物語の世界を豊かに想像する力を育てるこことを目指す。

6 単元の位置付け

■構造と系統　【読むこと—文学的な文章】　光村図書　小学校国語　学習指導書

1年	繰り返しのお話を読む 【おおきなかぶ】	○「順序」「登場人物」の行動に着目し、お話を内容を読み取る。 ○音読を通して、言葉のリズムのよさを感じる。
	お話を読む 【やくそく】	○誰が何を言ったりしたりしたかに気を付ける。 ○登場人物になったつもりで、声に出して読む。
	思い浮かべながら読む 【くじらぐも】	○友達と声を合わせて読む。 ○登場人物がしたことや言ったことを思い浮かべながら読む。
	好きなところを探して読む 【たぬきの糸車】	○お話には、いくつかのまとまりがある。 ○好きなところを選び、書き写したり、場面の絵を描いたりする。 ○声の大きさや読む速さを考えて、音読する。
	読んで感じたことを話す 【ずうっと、ずっと、大好きだよ】	○登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 ○感じたことを友達と話すと、お話をもっと楽しむことができる。
2年	お話を確かめる 【ふきのとう】	○登場人物を確かめる。 ○登場人物がしたことや、言ったことが分かる言葉を見つける。 ○絵に描かれていることを手掛けりにする。
	あらすじをまとめ 【スイミー】	○人物がしたことや出来事を、短い言葉で書く。 ○書いたものを、お話の順につなげる。
	人物がしたことや様子を 思い浮かべる 【お手紙】	○お話にある言葉や絵から、人物がしたことや様子を考える。 ○人物が、そのことをしたり言ったりしたのはどうしてなのかを考える。

人物と自分を比べて読む 【わたしはおねえさん】	○心に残った言葉や文を書き抜く。 ○自分と似ているところや、違うところを考える。 ○自分だったらどうするかを考えながら読む。
読んで、感じたことを伝え合う 【スホの白い馬】	○お話のどの言葉や文から感想をもったかをはっきりさせる。 ○友達の感想を聞いて、いろいろな感じ方や考え方があることを知る。

7 研究主題に迫るための手立て（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

（1）言語活動「ペーパーサート劇」（焦点化）

児童が登場人物になりきって読むために、ペーパーサート劇を行う。登場人物の気持ちを想像する際のヒントとして、以下の4点を伝える。

登場人物の行動や気持ちを想像するために

- ①会話はそのまま言うこと。
- ②会話の後にお話の内容に合ったことを言うこと。
- ③お話と関係ないことは言わないこと。
- ④地の文の気持ちを考えること。

まず第一教材「はなのみち」でやり方を練習する。本学級の児童は②と④の気持ちを考えて言ってみることは、比較的得意である。しかし、想像が飛躍して、関係ないことを言ってしまいがちである。③の制約があることで、単に登場人物の気持ちを想像するだけでなく、叙述を基に想像することができるようとした。また、初めに児童が演じる→教員劇を見る→もう一度、児童が演じるという流れで学習活動を行う。そうすることで、初めに内容の理解や想像が不十分で上手くいかなくても、その後の教員劇を見て、どこが違うのかに気付き、もう一度演じた時に内容理解や想像力を豊かに膨らませることができるだろうと考えた。

ペーパーサート劇への意欲を高めるため、舞台を作った。物語の中に出てくる木や葉を児童が作成することで、活動への見通しをもたせるようにした。

（2）ペーパーサート劇を振り返り、改善するための工夫（ICTの活用）

登場人物の気持ちを想像した後、全文を通してペーパーサート劇をする。劇の様子を動画で撮影することにより、撮影したものを自分たちで見合い、お互いの良かった点や改善点などを意見を出し合えるようにする。その意見を基に、劇台本を加筆修正し、再びペーパーサート劇を行う。再演も動画撮影し、見返すことで、改善点を自分たちで確認できるようにした。

（3）視覚的に見やすい教材の工夫（視覚化）

本文シートは、見開きページに収まる文章量（文字数）や文字の大きさを調整することにより、視野が広くない児童たちにとって、読みやすくした。

ペーパーサート劇に使う舞台は、木、葉、あおむしを視覚的に見やすいように、紺や黒の背景にした。また、ペーパーサートの動きに注目しやすいよう、演じ手が隠れられる舞台の高さを調整した。

ワークシートに登場人物の気持ちをまとめると、3匹のあおむし（黄緑、ピンク、水色）それぞれの気持ちを書きやすいように、あおむしと同じ色の付箋にした。また、付箋を葉の形にして、あおむしが木の上にいるイメージがもてるようにした。また、各ワークシートを縦につなげていき、場面ごとに木が高くなる様子を視覚的に捉えやすくした。

(4) 個の児童に応じた指導（個別的な配慮）

車椅子利用の児童が、他の児童と共に並べるように舞台の高さを工夫する。また、3匹のあおむし役のどの役もできるように、舞台裏で車椅子が動けるスペースを作った。立位も児童が転ばないよう、舞台の作りをシンプルにし、足元に注意するよう事前に声を掛けるようにした。

ワークシートに書く際、書く時間が足りない児童には、教職員が発言を書き取っておき、後でも書けるようにした。

8 学び方（「うさ松の秘伝書」の項目番号）

言語形式 様々な文学的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
1. 物語の設定や展開を確認する。 (読み方①②)	<p>【設定】登場人物：あおむし（1匹目、2匹目、3匹目） 大きな木 場所：ある大きな木</p> <p>【展開】出来事（事件）：3匹のあおむしが大げんか 事件解決のきっかけ：大きな木の言葉 事件解決：ちょうどなったら、海に行く約束</p> <p>【気持ちを考える上での手がかり】</p> <ul style="list-style-type: none">・あおむしと大きな木が言ったこと（会話）・あおむしと大きな木がしたことや場面の様子（地の文）・挿絵（あおむし、木、海）
2. 読みの手がかり（行動、会話、挿絵） を基に、登場人物の気持ちを読み取る。	
3. ペーパーサート劇を通して、登場人物の行動や気持ちを想像する。	<p>①1匹目のあおむしが、蝶に変わることを待っているとき ②2匹のあおむしが、葉っぱを取り合うとき ③3匹のあおむしが、大げんかをするとき ④大きな木の助言で広い世界を見付けるとき ⑤蝶になつたら海に行こうと約束するとき</p>

9 学習指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	◇支援 ★評価
一 登場人物の気持ちの読み取り方を知る。 (第一教材)	1 (習得①)	<p>「はなのみち①」のペーパーサートげきをやってみよう。</p> <p>○単元の目標を知る。</p> <p>○ペーパーサート劇の約束①②③を知る。</p> <p>○ペーパーサート劇をする。 ・ペアでやってみる ・教員劇を見る ・再びやってみる ・発表をして良かったところを共有する</p>	<p>○登場人物になったつもりで、ペーパーサート劇を演じることを伝えること。</p> <p>○ペーパーサート劇を通して気持ちを読み取るための手立て（やり方）を知ること。</p> <p>習得①ペーパーサート劇を通して、登場人物の行動や気持ちを想像するために ① 会話はそのまま言うこと。 ② 会話の後にお話の内容に合ったことを言うこと。 ③ お話と関係ないことは言わないこと。</p> <p>○手立てを基に、登場人物の気持ちを読み取ること。</p>	<p>◇ペーパーサートや舞台を見せて学習の見通しをもてるようにする。</p> <p>◇手立てを掲示する。</p> <p>◇第1教材として既習の物語「はなのみち」の第1場面を使い、叙述に基づいた気持ちかどうかに気付けるようにする。</p> <p>◇教職員が約束①②③を間違えて演じて見せ、気付いたことを発言させることで、やり方を覚えられるようにする。</p> <p>◇友達が演じているのを見て、良かったところや、内容に合っていない発言を発表し合うことで、約束①②③への定着を図る。</p>

<p>2 (習得②)</p>	<p>「はなのみち②」のペーパーサートげきをやってみよう。</p>	
	<p>○ペーパーサート劇の約束①②③を確認し、新たに④を知る。</p>	<p>○ペーパーサート劇を通して気持ちを読み取るための手立て(やり方)を知ること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 習得②ペーパーサート劇を通して、登場人物の行動や気持ちを想像するために <ul style="list-style-type: none"> ① 会話はそのまま言うこと。 ② 会話の後にお話の内容に合ったことを言うこと。 ③ お話と関係ないことは言わないこと。 ④ 地の文の気持ちを考えること。 </div>
	<p>○ペーパーサート劇をする。 •ペアでやってみる •教員劇を見る •再びやってみる •発表をして良かつたところを共有する ○登場人物の気持ち(会話)をワークシートにまとめる。</p>	<p>○登場人物の行動や、気持ち(会話、表情、口調、様子など)を想像し、考えや感じたことを伝えること。</p> <p>○書くことを通して、考えを深めること。</p>
		<p>◇手立てを掲示する。</p> <p>◇会話がない文章として、「はなのみち」の第2場面を使い、地の文の気持ちを考えるやり方を練習できるようにする。</p> <p>◇児童が演じた会話をホワイトボードに書き取り、ワークシートをまとめる際に振り返られるようにする。</p> <p>◇友達のワークシートを共有した後、加筆修正したい児童には、新たに付箋を渡す。</p> <p>★物語を読んで、すすんで内容の大体を捉えたり、感じたことや考えたことを伝えたりしようとしている。</p>

二 登場人物の気持ちを読み取る。(第二教材)	3 (活用①②)	あおむしのきもちをかんがえよう。	
<ul style="list-style-type: none"> ○本文の第一場面の範読を聞く。 ○ペーパーサート劇をする。 •ペアでやってみる •教員劇を見る •再びやってみる •発表をして良かつたところを共有する ○気持ち(会話)をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物や出来事を確認しながら聞くこと。 ○登場人物の行動や、気持ち(会話、表情、口調、様子など)を想像すること。 ○考えや感じた事を伝えること。 ○書くことを通して、考えを深めること。 	<p>習得②ペーパーサート劇を通して、登場人物の行動や気持ちを想像するためには</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 会話はそのまま言うこと。 ② 会話の後にお話の内容に合ったことを言うこと。 ③ お話と関係ないことは言わないこと。 ④ 地の文の気持ちを考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ワークシートの本文を確認しながら聞かせる。 ◇あおむしのペーパーサート劇に合うように、舞台には葉を提示しておく。 ◇車椅子の児童と立位の児童が隠れられる高さの舞台を作る。 ◇ペーパーサートの操作を通して、登場人物役の児童自身も、動きを見られるようにする。 ◇児童がペーパーサート劇をする様子を他の児童が見ることで、登場人物の行動や気持ちを想像しやすくなる。 ◇発表の際、友達と違う発言をほめることで、様々な発言を引き出す。 ◇児童が演じた会話をホワイトボードに書き取り、ワークシートをまとめる際に振り返られるようにする。 ◇友達のワークシートを共有した後、加筆修正したい児童には、新たに付箋を渡す。

<p>4 (活用②) 本時</p>	<p style="text-align: center;">にひきのあおむしのきもちをかんがよう。</p>	
<p>○本文の第二場面の範読を聞く。 ○ペーパーサート劇をする。 ・ペアでやってみる ・教員劇を見る ・再びやってみる ・発表をして良かつたところを共有する ○気持ち（会話）をワークシートにまとめる。</p>		<p>○登場人物や出来事を確認しながら聞くこと。 ○登場人物の行動や、気持ち（会話、表情、口調、様子など）を想像すること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 習得②ペーパーサート劇を通して、登場人物の行動や気持ちを想像するために ① 会話はそのまま言うこと。 ② 会話の後にお話の内容に合ったことを言うこと。 ③ お話と関係ないことは言わないこと。 ④ 地の文の気持ちを考えること。 </div> <p>○考えや感じた事を伝えること。 ○書くことを通して、考えを深めること。</p>
		<p>◇ワークシートの本文を確認しながら聞かせる。 ◇初めに演じた時に上手くいかなくても、その後の教員劇を見て、どこが違うのかに気付けばよいので見守る。 ◇発表の際、友達と違う発言をほめ、様々な発言を引き出す。特に、地の文の気持ちを考えた児童の発言を価値づけることで、他の児童への見本となるようにする。 ◇ペーパーサート劇の中で出てきた児童の発言を書き留め、発表の際に自分の発言を見られるようにする。 ◇児童が演じた会話をホワイトボードに書き取り、ワークシートをまとめる際に振り返られるようにする。</p> <p>★場面の様子に着目し、登場人物の（二匹のあおむし）の行動や気持ちを具体的に想像している。</p>

	5 ・ 6 ・ 7 (活用 ① ②)	さんびきのあおむしのきもちをかんがよう。	
		<p>○本文の第三場面の範読を聞く。</p> <p>○ペーパーサート劇をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3匹のあおむし役をやってみる ・教員劇を見る ・再びやってみる ・発表をして良かったところを共有する 	<p>○登場人物や出来事を確認しながら聞くこと。</p> <p>○登場人物の行動や、気持ち(会話、表情、口調、様子など)を想像すること。(3匹の大けんか以降から最後まで)</p> <p>習得②ペーパーサート劇を通して、登場人物の行動や気持ちを想像するために ① 会話はそのまま言うこと。 ② 会話の後にお話の内容に合ったことを言うこと。 ③ お話と関係ないことは言わないこと。 ④ 地の文の気持ちを考えること。</p> <p>○考えや感じた事を伝えること。</p>
		<p>○気持ち(会話)をワークシートにまとめる。</p>	<p>○書くことを通して、考えを深めること。</p>
ペーパーサート劇を演じよう。			
三役になりきって演じる。	8 ・ 9	<p>○役を決め、登場人物になりきって、ペーパーサート劇をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3匹のあおむし ・大きな木 <p>○役を交代して演じる。</p>	<p>○登場人物の気持ちや場面の様子が分かるように、工夫してペーパーサート劇を演じること。</p> <p>◇ワークシートの本文を確認しながら聞かせる。</p> <p>◇3匹のあおむしと大きな木役の役割を交代しながらペーパーサート劇を行うことで、様々な登場人物の行動や気持ちへの想像を広げさせる。</p> <p>◇大きな木の上まであおむしが上る際、手の可動域が小さい児童には、ペーパーサートの棒を長く伸ばせるようにする。</p> <p>◇発表の際、友達と違う発言をほめ、様々な発言を引き出す。特に、地の文の気持ちを考えた児童の発言を価値づけることで、他の児童への見本となるようにする。</p> <p>◇ペーパーサート劇の中で出てきた児童の発言を書き留め、発表の際に自分の発言を見られるようにする。</p> <p>◇児童が演じた会話をホワイトボードに書き取り、ワークシートをまとめる際に振り返られるようにする。</p> <p>★場面の様子に着目して、登場人物(あおむし3匹)の行動や気持ちを具体的に想像している。</p>

10 儲け付けの工夫

教師からの評価による 価値付け	机間指導	叙述や挿絵から、あおむしの気持ちを膨らませている児童を 価値づける。
	全体共有	どうしてそう思ったのか叙述から考えている児童を価値づ けるようする。
	評価	物語を読んで感じたことや伝えたことをすすんで書いたり、 伝えたりしようとしている。
児童同士の 交流による 価値付け	考え方伝え合う	<ul style="list-style-type: none">・叙述を基に根拠を明確にしながら伝えている。・自分と違う考えに気付き、加筆・修正している。

1.1 本時の指導（4／9時）

(1) 目標 第二場面の登場人物の行動や気持ちを具体的に想像し、発表したり書いたりして伝えることができる。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
1. 前時までの学習を思い出す。	○前時の学習を思い出し、めあてを確認すること。	◇前時まで学習したワークシートを活用して想起させる。(全)
にひきのあおむしのきもちをかんがえよう。		
2. ペーパーサート劇の約束①②③④を確認する。	○ペーパーサート劇の約束①②③④を確認すること。	◇掲示物への注目を促す。前時までの学習を想起させ、確認させる。(全)
3. 本文の第二場面の範読を聞く。	○登場人物の行動や会話に気を付けて聞くこと。	◇どこを読んでいるか分かるように指で追わせる。(個)
4. ペーパーサート劇をする。 ・ペアでやってみる ・教員劇を見る ・再びやってみる	■誰がどんな行動をしたのか、誰が言ったのか、分かららない。 ○登場人物の行動や、気持ち(会話、表情、口調、様子など)を想像すること。 習得②ペーパーサート劇を通して、登場人物の行動や気持ちを想像するために ① 会話はそのまま言うこと。 ② 会話の後にお話の内容に合ったことを言うこと。 ③ お話と関係ないことは言わないこと。 ④ 地の文の気持ちを考えること。	◇初めに上手くいかなくとも、見守り、教員劇の後、どこが違うのか気付いたことを発表させる。(全) ◇ペーパーサート劇の中で出てきた気持ちを書き留め、見られるようにする。(全) ◇友達と違う発言をほめ、様々な発言を引き出す。特に地の文の気持ちを考えた児童の発言を価値づけることで、他の児童への見本となるようにする。(全)
・発表をして良かったところを共有する	○考えや感じた事を伝えること。	◇本文のどこに基づいて気持ちを言ったのか本文と照らし合わせる。(全)
5. 気持ち(会話)をワークシートにまとめれる。	○書くことを通して、考えを深めること。	◇付箋に書く時間がない児童は、口頭で発言させ、教職員が付箋に書き取るようにする。(個)
6. 友達とワークシートを共有し、加筆修正したい場合は行う。		★場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
7. 次時の学習を確認する。		

1 2 板書計画

